

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

9 みんなで未来をつくるまち
まちづくりの設計図

第6次志免町総合計画

志免町経営企画課政策推進係

清原 哲也 (きよはら てつや) 安恒 喜寿 (やすつね よしひさ)

※経営企画課は町の資産（お金や施設など）について総合調整を担う課です。政策推進係では町の政策の取りまとめを行い、総合計画や地方創生に関する総合戦略の策定のほか、ふるさと納税や公共交通施策等を担当しています。



第6次志免町総合計画とは？

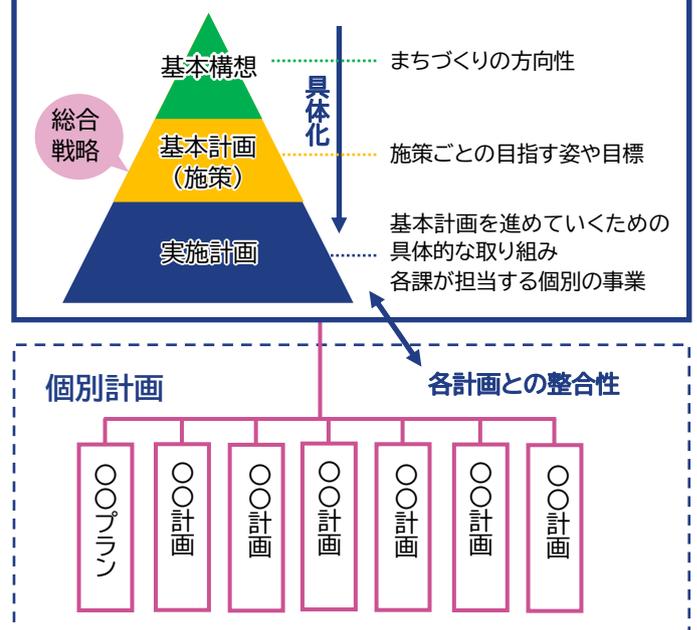
前回の計画との違い、特徴など

総合計画は、今後の志免町をどんな町にしていけるのかという中長期的な指針、まちづくりの設計図です。企業でいえば経営計画、経営ビジョンにあたるものです。計画期間は10年となっていますが、総合計画には3つの階層があり（※右図参照）、①10年後の将来像の実現に向けた目標（＝基本構想）、②5年ごとの見直しをする計画（＝基本計画）、③毎年見直しをする計画（＝実施計画）という構成になっています。

今回の計画では、施策という広い領域ではなく、その施策の中での取り組みごとに8つの重点項目を設けています。またSDGs（エス・ディー・ジーズ、持続可能な開発目標：2015年に国連で採択された国連加盟国が2030年までに達成すべき目標。貧困の根絶、福祉の推進など17分野にわたる）の視点を取り入れたこと、町の総合戦略を総合計画に盛り込んだこと、志免町在住の高校生が計画策定のプログラムに携わったこと等が特徴として挙げられます。

それから小学生向けに計画の絵本版を作成中です。大人だけでなく、小学生一人ひとりもまちづくりの担い手ですから「自分たちもまちづくりに関わっているんだよ」ということを子どもたちにちょっとでも感じてもらえたらなと思っています。

第6次志免町総合計画の構成と位置づけ



※第6次志免町総合計画冊子を参考にまちづくり支援室にて作成



▲一人ひとりがまちづくりの担い手ですと話す清原さん（手前）



◀ 町民に配布された概要版4～5ページでは、より良いまちづくりのためにみんなができることを具体的に紹介している

計画の先にある取り組みと、評価する仕組み

総合計画というのは町の最上位計画です。志免町の場合、町の職員一人ひとりに総合計画の冊子を配布します。また新規採用の職員に対しても、新任研修で説明を行います。

町の職員は、自分が担当する事業（実施計画における個別の取り組み）について、総合計画を見ながら進捗管理を行います。計画には町が取り組むべき内容とその目標が書いてあるので、職員はそれをもとに事業を遂行し、「こういう課題に対応できていないよね」「じゃあこんなことをしようか」「やり方を変えようか」というような評価や改善を行っています。

今回、総合計画策定に携わって感じたこと

今回はコロナ禍での計画策定となり、試行錯誤の連続でした。また、これまでも別の課で計画策定に携わる機会はありませんでしたが、個別計画と総合計画とで計画づくりに違いがあると感じました。

個別計画といっても色々な分野にまたがるので、様々な関係者に協力してもらわないといけません。ただ自分が担当して行う計画なので、他の方に意見を聞くのはあくまで利害を調整する、知見を求めるといった要素が大きいです。一方、総合計画の場合、策定担当は経営企画課ですが、個別の取り組みは各課が担当し、評価、改善を行います。経営企画

課はその評価をもとに次の予算に反映させていく。つまりこちらはあくまで取りまとめ役であり、マネジメントする立場です。また町全体の計画なので、個別計画よりもさらに関わる人が多くなります。住民参画や関係各所との調整の質・量ともに個別計画とは桁違いで、調整が大変だなと感じます。

行政職員だけでなく、みんなでまちの未来をつくる

町民の皆さんには、計画書の概要版を全戸配布しました。今回の計画では「みんなが未来をつくるまち」という将来像を掲げています。まちづくりは行政職員だけでやるのではなく、町民の皆さん、志免町に関わる人たちみんなにより良いまちをつくっていきましょうということを一番伝えたいです。

まずは総合計画の概要版を町民の皆さんに見ただけで、何気なくやっているちょっとしたことがまちづくりにつながっているんだと実感してもらい、自分たちもまちづくりの担い手なんだという意識を持ってもらえたら嬉しいです。そして志免町のことをもっと好きになってもらいたいですね。

取材を終えて

多くの汗と知見が持ち寄られて、総合計画ができていることを知りました。それが無駄にならないように、きちんと町の方向性や計画を理解した上で、参画や提案をすることが大切だと思いました。

